

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Orange青山		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 16日		～ 2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2024年 12月 12日		～ 2024年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様なニーズに応える柔軟性 利用児童一人ひとりの特性や発達段階に応じて、個別対応や小集団対応など、柔軟な支援プログラムを提供しています。保護者様のニーズに合わせてサービスを組み合わせ、児童の興味や能力を引き出す療育プログラムを心掛けています。これにより、児童が自分らしく、かつ最良の形で成長できるよう、支援を行っています。	職員が利用児童一人ひとりの様子を細かく観察し、適切な支援の方法を模索しています。特に、絵カードや視覚支援を活用して、利用児童が安心して活動できる環境を整えています。保護者様やご本人の抱えている困りごとや相談にすぐに対応できるよう職員間での情報共有を密に行っています。	支援方法の選択肢をさらに広げるため、最新の療育技法の導入を検討していきます。また、利用児童が自発的に活動に取り組む機会を増やすために、新しいプログラムの開発にも力を入れていきたいです。児童がより積極的に学び、成長できるように環境作りを目指します。
2	高い専門性を活かした個別支援 最重度の障害を持つ方々への療育経験や専門的な知識を基に、利用児童一人ひとりに合わせた個別支援計画を作成・実施しています。特に、発達障害や行動面での特性を持つ児童に対しては、細心の注意を払って対応し、最適だと思われる支援を提供しています。	利用児童の記録や支援計画は職員間で共有する仕組みを整えています。これにより、支援の一貫性が保たれ、児童に対して常に必要な情報を共有された上で支援ができるようにしています。職員全員が同じ情報を基に支援を行うことで、より効果的な支援が提供しています。日頃から職員間で相談しやすい環境づくりにつとめたり支援の方向性について話をして共有し、具体的な取り組みを検討しています	職員のスキルアップのため、より専門性の高い研修の導入や資格取得支援を拡充していきます。また、最新の療育ツールや技術の導入を進め、実践的な支援力をさらに強化していきます。
3	支援の一貫性と保護者様との信頼関係 当事業所は離職率が非常に低いです。そのため担当が変わらず継続的に児童の発達に合わせた支援を行うことができます。また、支援は全職員で共有され、支援の一貫性が保たれることで、より効果的なサポートが提供されています。 保護者様との信頼関係も非常に重要視しており、支援の進捗や児童の様子をこまめに共有しています。支援計画の内容についてや児童の成長、保護者様の悩みなどについても積極的に相談し、連携強化しています。	支援目標を明確に設定し、保護者様と共有することにより、家庭と事業所が連携して支援を進めることができるよう努めています。目標を共有することで、保護者様と事業所が共通の認識を持ち、児童の目標達成に向けた支援を協力して行えるようになります。また、利用児童の成長に応じた目標の見直しを定期的に行うことで、支援の内容を柔軟に調整し、常に最適な支援を提供できる体制を整えています。児童の発達やニーズに対応し、より効果的な支援が実現できるよう心掛けています。	保護者様への情報発信を強化し、日々の支援内容や児童の様子、イベントの様子などを積極的に共有することで、保護者様との連携をより深めていきます。この取り組みによって、保護者様が当事業所の支援内容を理解しやすくなり、家庭との協力体制が一層強化されると考えています。支援内容の透明性を高めることで、保護者様が安心してお子さまを預け、より良い支援ができる環境を作り上げられると考えています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報管理体制の不足について Orange青山をはじめ芝浜株式会社各事業所では、各業務や行事に担当者が割り当てられ、それぞれが責任を持ち担当業務を遂行しています。しかし、この仕組みが一部の職員間での情報共有不足を招いているようです。 忙しい業務の中で、担当者からの報告が十分に理解していないケースだけでなく、情報そのものは共有されているにもかかわらず、「自分は担当外だから関係ない」と判断するケースもあり、結果として必要な情報が共有はされているのに十分に理解されていない状況となっています。	情報共有への意識の向上 一部の職員において、情報共有の重要性が理解されていない状況があります。情報共有の方法が整備されている分、扱う情報量が増え、一つひとつの情報をしっかりと把握しようとする意識が薄れているようです。 また、明確な業務分担がなされていることが要因となり、自分の役割に対しては高い意識を持つ一方で、他の職員の業務には関心が薄れがちです。このような状況が、組織全体での情報共有の課題につながっていると感じています。 職員全員が情報共有の意義を理解することが重要です。	定期的な会議と連携強化 定期的な会議を通じて、職員同士が情報を積極的に交換できる場を設けます。特に重要な情報が理解されていないことは、Orange青山の重大な課題です。 原因としては、情報量の多さや関係者間での認識のズレが考えられます。情報を視覚化し、わかりやすくする工夫をするとともに、会議後に重要事項を簡潔にまとめた記録を全員に共有します。
2	支援終了後の振り返りが不十分 支援が終了した後の振り返りや評価が十分に行われていないことがあったようです。振り返りが行われないと、支援の効果や問題点を正確に把握することができず、次回の支援に活かすことができません。	振り返りの時間不足 支援終了後の振り返りの重要性に対する意識が不足しているため、振り返りの時間が後回しにされがちです。このため、支援の質向上に向けたフィードバックが不十分となり、次回の支援に生かすための改善点が見逃されてしまう危険性があります。	振り返りの時間確保と効果的な評価 支援が終了した際には必ず振り返りの時間を確保し、支援の効果を評価するようにしていきます。この振り返りを通じて、どのような支援が効果的だったのか、改善が必要な部分はどこかを明確にします。支援の質をさらに向上させ、より効果的な支援が提供できるようにしたいです。

3	<p>地域に開かれた事業運営の実施がない</p> <p>現在、地域に開かれた定期的な連携活動が不足しており、これにより姫路地域全体に住む子どもへの支援が遅れる可能性や断片的な支援が行われる危険性があります。地域との連携を強化することは、支援の充実を図るために重要な課題だと思っています。</p>	<p>地域連携の危険性と特性への配慮</p> <p>地域連携の重要性については認識していますが、障害特性や安全面の懸念から、具体的にどのような方法で地域の方々を事業所に受け入れるかについては慎重にならざるを得ません。特に、無差別に地域の方々を受け入れることに対して、障害特性に配慮した対応が求められるため、どのような方法が最適かを慎重に検討する必要があります。</p>	<p>地域交流の推進とハードルの克服</p> <p>まずは、地域交流を進めるために、地域の行事に積極的に参加する形で連携を深めていきたいと考えています。地域の方との接点を増やし、理解を深めたいです。</p> <p>ただし、地域住民を事業所のイベントに招待するためには、まだ多くのハードルがあると感じており、これらの課題を一つずつクリアし、地域連携を進めていくしかありませんが、現状は難しいと言わざるを得ません</p>
---	---	--	--

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 Orange青山

公表日 2025年1月22日

利用児童数 2024年12月32日 46人中

回収数 37人(80%)

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	37(100%)						
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	35(95%)	1		1	特性により、支援を要する子供がいる場合は職員を増員した方がいいと思う。	児童の特性に応じた柔軟な職員配置を継続し、必要に応じて再検討を行います。すべてのお子様に必要な支援を提供できるよう努めます。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	36(97%)				1	視覚的にわかりやすい設備の充実とバリアフリー化を進めます。安全な動線の整備をすすめます。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	36(97%)	1				お手洗いが清潔ではないことがあった。 お手洗いについて使用後確認を徹底し、清掃頻度とチェック体制を見直します。引き続き清潔な環境維持に努めます。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36(100%)				重度の知的障がいがありますが、しっかりと子供を見て専門的なアドバイスや支援をしていただいています。 自分の意思を伝えるくい場合、声掛けや確認等で本音を引き出してほしい。	情報共有と職員研修を強化し、1月中に心理指導職員を増員します。適切な支援を継続して行います。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	37(100%)						
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	37(100%)						
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	37(100%)					適切な支援をしていただき、利用してからゆっくりですができるようになって、成長できています。	これからも五領域に沿った支援ができるよう努めていきたいと思っています。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	37(100%)						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	37(100%)					いろいろなプログラムをしていただき、いろいろな体験をさせていただいております。	これからも様々な体験ができるようにプログラムを工夫していきたいと思っています。
保 護 者 へ の 説 明 等	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	32(86%)	2		3			
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	37(100%)						
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	37(100%)						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	29(78%)	4	1	2	今年から利用させていただく事になり、まだその機会に出会えていない	保護者様向け研修会や情報提供を充実させ、ご家族との理解と協力を深めていきます。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	36(97%)	1				家で子どもが伝えてきた悩み事などを相談すると即時対応していただき、解決していただけます。	送迎時引継ぎやメール、電話、連絡ノートなど、保護者様とお子さまの困りごとについては密な情報共有を行えるよう、考えうる限りの情報を共有できるツールを活用しています。ご連絡いただいた困りごとなどはスピード感を大切に即時対応させていただけるよう心がけています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	37(100%)						
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	36(97%)	1					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	28(75%)	4	1	3			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	37(100%)				困り事など相談させていただいてもすぐに対応をしてください、安心できます。アドバイスや具体的に対応、協力して下さるので本当に嬉しいです。	これからご満足いただけるよう、ご相談などにはすぐにお答えできる体制と設備を整えてまいります
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	37(100%)				連絡ノートや電話、フォーム、メールなど、多様な情報共有の手段を通じて、保護者の意見を伺う機会を設けるなど徹底した対応がなされています。 しっかりと子供に寄り添いながら接していると思います。	相談と同じように、これからも様々な方法で保護者様のご意思をお聞きできるように徹底した対応を続けてまいります
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	37(100%)					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	37(100%)					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	37(100%)					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	37(100%)				訓練されているようで安心できます 通所の曜日によって参加した事がない児童も年に一度はどこかで参加した方が良いと思う。	次年度も年3回実施を予定し、すべての保護者様へ訓練内容を周知します。消防署に届け出をする訓練以外にも定期的に、自主的に避難練習や防災ブラザーなどを活用し体験を行い年に一度は避難練習、体験に参加できるようにします。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	37(100%)					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	37(100%)					
満足度	28	子どもは安心感をもって通所していますか。	36(97%)	1			4年目になるので安心して通っています 安心感があるようですね行ってくれます	不安なお子様には職員がそばで支える環境を整備し、専門職員と連携して安心感を提供します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	36(97%)	1		1	毎日楽しみに行っています 言葉が出ない子ですが、オレンジさんと言うとニコニコして楽しそうに通っています。	新しい体験や行事を積極的に導入し、お子供が楽しみにできる環境作りを目指します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	36(97%)	1			季節のイベントやおでかけも多く、子どもが楽しく過ごせるように工夫していただいております いつも助けていただき、ありがとうございます。とても満足しています。	アンケート結果を全職員で共有し、支援内容を見直し、さらなる満足を目指して改善を進めます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Orange青山		公表日		2025年 1月 22日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		基準に比べ広いスペースを確保しています。放課後等デイサービスの基準(24.7m)をはるかにこえる面積の指導訓練室、相談室に加え、静養室、3つの多目的室、複数のトイレ、浴室などを備えています。	スペースにつきましては、他の事業所と比較しても、姫路市でこれほど広い事業所はないと思われ、保護者様や職員からも非常に高い評価をいただいています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		個別、小集団療育の実施のため、通常の10名定員の事業所(2名配置)の3倍以上(常勤換算7.6名)の職員数で療育を行っています。	非常に高い評価を得られていますが、結果に満足せず、児童の特性に応じた柔軟な職員配置を継続し、必要に応じて再検討を行います。すべてのお子様に必要な支援を提供できるよう努めます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		訓練室や各指導室には、目的に合わせた備品や教材が整備されており、各児童に合わせて課題、時間、スケジュールなどが視覚的にわかりやすく構造化されています。	今後も、用途に応じた視覚的にわかりやすい部屋わけや設備の充実を進め、さらにバリアフリー化を進めていきます。また、安全な動線の整備も積極的に行ってまいります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の掃除に加え、必ず次亜塩素酸ナトリウムやアルコールによる除菌、殺菌消毒を行っています。	お手洗いに際してご意見を受け、使用後の確認、清掃頻度、チェック体制を見直し、清潔な環境維持に努めています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別対応を行うために、個別の部屋や場所を多く設けており、その対応に合わせて職員も十分に配置しています。	部屋数や広さを活かし、さらに積極的に個別対応を進めていきます。保護者や職員のアンケート結果でも非常に高い評価をいただいております。今後もこの取り組みを継続してまいります。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		週に1度の会議を開催し、個別支援計画や専門的支援計画を振り返りながら支援と目標設定を行っています。	PDCAサイクルに加えて、他の円環プロセスも取り入れ、支援の質をさらに向上させることを目指しています。保護者や職員から非常に高い評価をいただいております。今後もこの取り組みを継続してまいります。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表のご意見につきましては、即時改善をはかることができますようにしています。回収方法にも工夫を凝らし、できるだけ匿名性を確保することで、保護者や職員の生の声を聞けるようにしています。	単純に紙の配布だけでは匿名性が不十分と感じ、さまざまな方法を試して実際の意見を集め、業務改善に役立てています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		週に1度の会議やビジネスチャット、定期的な経営者面談や施設長面談を通じて、意見を積極的にくみ上げています。	特に若手の新人職員が感じたことや率直な意見は、施設を良くするための貴重な宝だと考えています。できるだけ意見を出しやすい職場づくりや関係づくりに力を入れ、職員が自由に意見を交換できる環境を整えています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	△		他の事業所のみならず、障害児通所事業との連携を深め、法令遵守ができていないかを常に相互に評価しあい、見直しを行っています。	他事業所との交流と情報共有を積極的に行うとともに、定期的に他事業所から外部評価を受ける機会を設け、さらに改善点を見つけてまいります。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修への参加だけでなく、法人内でも新任研修、中堅職員研修、リーダー研修を実施し、自由参加の勉強会も行って、常に知識を更新しています。	法人内で好事例集を活用した学習や独自の研修を行い、研修に力を入れています。その結果、他の事業所からも学びに来ていただく機会が増え、「学びたい」という声をいただいております。今後も継続していきたいと考えています。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムについては姫路市でいち早く作成し、適切であるかの確認を行った後、ホームページにて公表しています。	公表するだけでなく、全員が内容を理解し、いつでも振り返りができるように工夫しています。常に確認できる環境を整え、支援に当たるときに役立てています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントをもとに計画を立て、事業所全員で内容を確認した後、仮作成を行います。その後、保護者様に計画を確認していただき、同意を得てから正式に作成します。	保護者、職員アンケートでも非常に高い評価を得られているため今後も継続してまいります。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画の作成にあたっては、事業所全員に確認してもらい、意見を求めたり共通理解を深めたいと考えています。	非常に高い評価をいただいているため、今後もこの方法を継続してまいります。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		上記のように計画に関しては必ず職員全員が確認したうえで計画に沿った支援を行えるようにしています。	非常に高い評価を得られているため今後も継続してまいります。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		必要に応じて、標準化された評価ツール(WISC-Vと関連性のあるもの)を選択肢として用意しているだけでなく、日常的な行動観察や記録を基にしたケース記録も作成しています。	特にASDのお子さまについては、言語性検査で低い結果が出る可能性があることを考慮し、現状にとどまらず、今後もさまざまな方法で支援を進めていく必要があると考えています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		放課後等デイサービス計画の書式に「本人支援」「家族支援」「移行支援」を書く項目を作り、必ずそれに沿った支援内容を示せるようにしています。	計画については徹底しており、非常に高い評価を得られているため今後も継続してまいります。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月の行事や活動プログラムについては、チーム内でイベントや行事の担当を決め、例えば母の日のプレゼント作りなど、専門の係を設けています。各担当者が起案書を作成し、チーム全員で共有・確認を行った後、実施しています。	全員で立案・共有し、協力して進めていることで、スムーズなプログラムの実施が可能となっています。今後もこの体制を継続し、より良い活動を提供できるよう努めます。必要な場合には不足している部分を補い、改善を行ってまいります。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	時間が許す限り、さまざまな体験活動を提供できるよう努めています。季節に合わせたイベントや体験活動、行事訓練など、多彩なプログラムを実施しています。	プログラムが固定化しないように、費用や時間を考慮しつつ、定期的に企画会議を開いています。高い評価をいただいているため、今後もこの取り組みを継続し、さらに充実させていきたいと考えています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	当事業所だけでなく、学校や他の事業所、そしてご家庭でのお子さまの様子も慎重に聞き取り、状況を確認しながら計画を立てています。お子さま一人ひとりに応じて個別活動と小集団活動を組み合わせ、柔軟かつ効果的な支援を提供しています。	保護者様や学校との情報共有をしっかりと行い、日常的には個別支援を行いながらも、行事やイベントでは集団活動を取り入れるなど、バランスの取れた支援を行っています。このアプローチが高い評価をいただけており、今後も継続していきたいと考えています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	職員同士の連携を強化するため、ビジネスチャットだけでなく、その日の役割分担を明確にする動向表を作成しています。この表によって、当日の支援体制やチームメンバーの動きを全員が把握できるようにし、支援前に必ず確認を行っています。	チーム連携のため、どの職員が何を担当しているの一目でわかるようになり、全員が共有した情報のもとで支援を行うことができます。職員全員が役割を理解し、協力して支援に臨むことで、円滑な連携が実現しています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	「打ち合わせ」という形式名ではありませんが、小集団で関わった職員同士で振り返りを行い、支援終了後に共有すべき内容については即時にビジネスチャットを活用して全員に伝えています。	支援終了後は、共有が必要な情報を速やかに伝達することを徹底しています。また、疑問点や困ったことがあれば、その場で相談し合い、当日一緒に関わった職員との振り返りや意見交換が日常的に行われています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	日々のケース記録や専門的支援実施記録、業務日誌などをしっかりと記録し、支援の振り返りができる体制を整えています。	非常勤職員の業務が切り分けられているため、支援内容の聞き取りは常勤職員が担当し、その後の記録共有を行っています。今後は、このプロセスについて周知が漏れないよう、さらに徹底していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	適宜モニタリングを行い、支援計画の見直しを実施しています。	業務量の短い職員については、モニタリングの機会が少ないため、しっかりと説明が必要だと考えています。結果に満足せず、周知徹底を図っていきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	計画には基本活動を組み入れ、自立支援や日常生活の充実に向けた活動、多様な遊びや体験、地域交流など、子供が主体的に参画できる活動を組み合わせた支援を行っています。	今年度だけでなく、以前から取り組んできた組み合わせ型の支援が高い評価につながったと感じています。今後もその評価に満足せず、さらに改善を続けていきます。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	自己選択や自己決定を育むことは、支援を行う上での基礎知識として徹底しています。	自己選択・自己決定の重要性については、研修などを通じて職員にしっかりと伝え、理解を深めてもらっています。その結果、高い評価をいただいていると思いますので、今後もこの取り組みを継続していきます。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	会議の時間帯によっては参加できない場合がありますが、できる限り、支援状況や職員配置を考慮して、理解を深めた職員が参加できるように調整しています。	完全な参加が難しいこともありますが、今後も状況に応じて調整を行い、できるだけ会議に適した職員が参加できるよう努めていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	関係機関との連携は日々行っており、特に保育園、学校、障害福祉との連携については密に取り組んでいます。	当事業所では、障害福祉事業所などとの連携を非常に重視しており、すべての事業所ではありませんが、他の事業所から頻繁に相談や学習のために訪問されるなど、交流や連携が非常に密であると自負しています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	こちらから積極的に連絡調整を行っていますが、時に過剰になりすぎることがあります。学校から直接ご連絡をいただけることも増えてきました。	お子さまの状況については、積極的にお伝えし、帰宅時間が不明な場合や児童の変化など、細かな点もきちんと連絡を行っています。今後も引き続き密に連携していきたいと思っています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	新一年生については、就学前からOrangeの児童発達支援を利用されていた方がほとんどであり、そのため非常に密に情報共有ができています。小学生のお子さまについては、必要に応じて昨年度の担任の先生とも連携を行っています。	今後も密に情報共有していきたいと思っています。また、職員にもそのことを周知徹底していきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	まだ高校卒業まで利用されたお子さまが障害福祉サービス事業所を使われることが少なく、周知できていませんが、特にご連絡のあるお子さまに対しては、卒業後も徹底してサポートや情報共有を行っています。	お子さまの将来のために、就職先や進路について密に連携を取ることは当然だと考えています。今後も引き続き、密に情報共有を行い、卒業後においても必要であればサポートを行っています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	児童発達支援センターとの連携については不十分だと感じます。	児童発達支援センターとのつながりが希薄であるため、できるだけ研修への参加など検討していきたいと思っています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	障がいのない地域の他の子どもたちとの地域行事への参加（お祭りや地域イベントなど）や、地域の方々と協力して行う収穫体験なども積極的に取り入れています。	地域イベントや障害のない児童との交流については、保護者様から高い評価をいただいているのですが、今後もこの結果に満足することなく、さらに多くの機会を提供し、参加を進めていきたいと考えています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	協議会への参加はこれまでではできていませんでしたが、今年度から参加することになりました。	今年度から参加したいと思っています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時のみではなく、電話、メールでもお子さまの発達や成長についてのお話をできるように徹底して心がけております。	連絡手段はできるだけ多く提供したいと考えていますが、手段が多い分、どうしてもお返事にお時間をいただくことがあります。そのため、今後はさらに工夫が必要だと感じています。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	全児童を対象にしたものではありませんが、今年は試験的に保護者向けの研修会を開催しました。それ以外にも、送迎時や電話でのお話の際には、積極的に助言や支援を行っています。	この項目について保護者の意見と職員の意見がほぼ同致であり、回答は「はい」が8割、その他2割でした。この2割の職員が十分にできていなかったことを受け止め、今後は家族支援に対する意識を再度徹底したいと考えています。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に重要事項説明にて説明しています。支援プログラムはスマートフォン対応のホームページで常に公開していますので、いつでもどこでも確認いただけます。	今後も必要な情報を、いつでもどこでも見返していただける状態を維持していきます。非常に高い評価をいただいているため、継続していきます。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	他事業所に比べ多くの専門職員を配置するとともに、理学療法士、言語聴覚士、相談支援専門員資格者、10年以上保育士などが連携し、お子様の最善の利益とご家族のご意向を踏まえ計画書を作成しております。	計画だけでなく、このサービス自体が児童や保護者様の最善の利益に基づくものであるべきだと考えております。アンケートをはじめ、連絡ノート、メール、電話など様々な方法でご家族の意向をしっかりと収集し、それに沿った支援を徹底しています。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		必ず保護者様に確認していただき同意のサインをいただいているから、支援の提供を行っております。	非常に高い評価を得られているため今後も継続していきます	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		半年に一度の面談を通じて、直接保護者様からお話を伺っています。それ以外にも、送迎時やお電話でのやり取りの際に、積極的に助言を行っています。	保護者様が気軽にお話しできる環境を提供できるよう、研修などでもその重要性を伝えております。非常に高い評価を得られているため今後も継続していきます	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	△ (全員対象にはなかった)			今年は、卒業した児童のお母様にご協力いただき、普通学級に進学する児童の進学に関する悩みを相談する交流会を試験的に実施しました。今後は対象を広げ、希望される方が参加できるようにしていきたいと考えています。	対象者が限られていたため、全ての方に参加していただける機会を提供できませんでした。しかし、兄弟への支援については多くの方々に提供できたと感じています。今後は父母会への支援方法をさらに考え、より多くの保護者様に支援を提供できるように努めたいと考えています
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			契約時に重要事項説明書にて説明させていただいております。申し入れがあった際には迅速な対応に努めております。	非常に高い評価を得られているため今後も継続していきます
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			ホームページや予定については毎月更新を行っており、また、月に一度通信を発行しています。	毎月の広報誌やホームページには、写真付きで活動報告や予定を掲載しています。警報時などの重要な情報もこちらに載せており、高い評価をいただいております。今後も継続していきたいと考えています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			個人情報は鍵付き書庫で保管し、必要時のみ使用しています。	鍵付き書庫のみではなく、連絡帳では他の児童が映らないよう写真の撮り方に工夫を凝らし、外部から個人情報が見えないよう徹底しています。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			情報伝達の方法については、日々の申し送りに加え、メールや電話、連絡ノートでのやり取りを行っています。また、写真付き連絡帳を使って活動の様子をお伝えするなど、伝え方に工夫を凝らし情報の伝達を徹底して	非常に高い評価を得られているため今後も継続していきます
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			地域行事やイベントへの積極的な参加は行っていますが、障害特性を考慮すると、地域住民の招待に関しては現時点では難しい状況です。	安全確保と児童の特性を踏まえた上で、招待を行うことには課題があると考えています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			Orange青山では、各種マニュアルを事業所に分かりやすく備え付けており、定期的な研修を通じて従業員に周知徹底しています。必要に応じて、いつでも確認できるようにしています。	いつでも見られるように事業所にわかりやすく備え付けてあります。もう少しわかりやすくなれば工夫していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			避難訓練は消防に届け出を出し年に3回、その他訓練につきましても定期的に行っております	年3回以上会議でも周知し、実際に行っています。避難訓練のみでなく、様々な非常災害の訓練や災害時対応のための防災研修も行っています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			アセスメントシートに項目を設け、保護者様に聞き取りを行っています。また、服薬が必要な行事などの際には、再度情報収集を行い、服薬状況に変わりがないかを確認しています。	アセスメントシートには必ず必要事項を記載し、全員に徹底しています。特に、長時間参加する行事で食事が提供される場合には、保護者様に再度アンケートを取り、アレルギーやてんかんの状況について確認を行っています。行事に参加する職員全員には、保護者様からの聞き取り内容を再度配布し、参加時にいつでも確認できるようにしています。その上で、行事に臨んでいます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	△			基本的には、事業所では食事は提供せず、おやつのみを提供しています。おやつは、保護者様を通じて医師の指示を聞き、選択してもらった形を取っています。この方法で十分に対応できていることがほとんどです。情報をもとにアレルギーリストを作って、職員に共有するとともに、いつでも確認ができるようにしています。	医師の指示書に基づく対応については、現在のところ、保護者様からの自己申告を中心に行っており、指示書の確認までは行っていません。今後、直接指示書を受け取る必要性について検討していきたいと考えています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			定期的な研修と訓練を行っております。直近では12月にも行いました。	年3回以上会議でも周知し、実際にも行っています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			災害時安全確保のための避難計画を市役所に提出。非常時にもホームページでいつでも、見られるように公表しております。	自社ホームページに公表してありますが、周知徹底が不足している部分がありましたが、保護者様からは100%の評価をいただきました。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			ヒヤリハットについて、年1度の研修を行うとともに、ヒヤリハットの事例が起こった場合には全員に回覧し、共有し、再発防止に取り組んでいます	今後も継続していきます
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			虐待防止研修を年に1度行っており、単なる制度の理解にとどまらず、虐待がなぜ起こるのか、現場の意識と保護者支援の観点から踏み込んだ内容で実施しています。	虐待防止については非常に力を入れて研修や教育を行っており、これまで高い評価をいただいております。今後も継続して実施していきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			計画には必ず身体拘束についての一文を入れさせていただき、保護者様に説明もさせていただいております。	計画に必ず書いてありますが、今後も周知徹底を行っていきたく思います。	